

## ⑦ 柵状配列

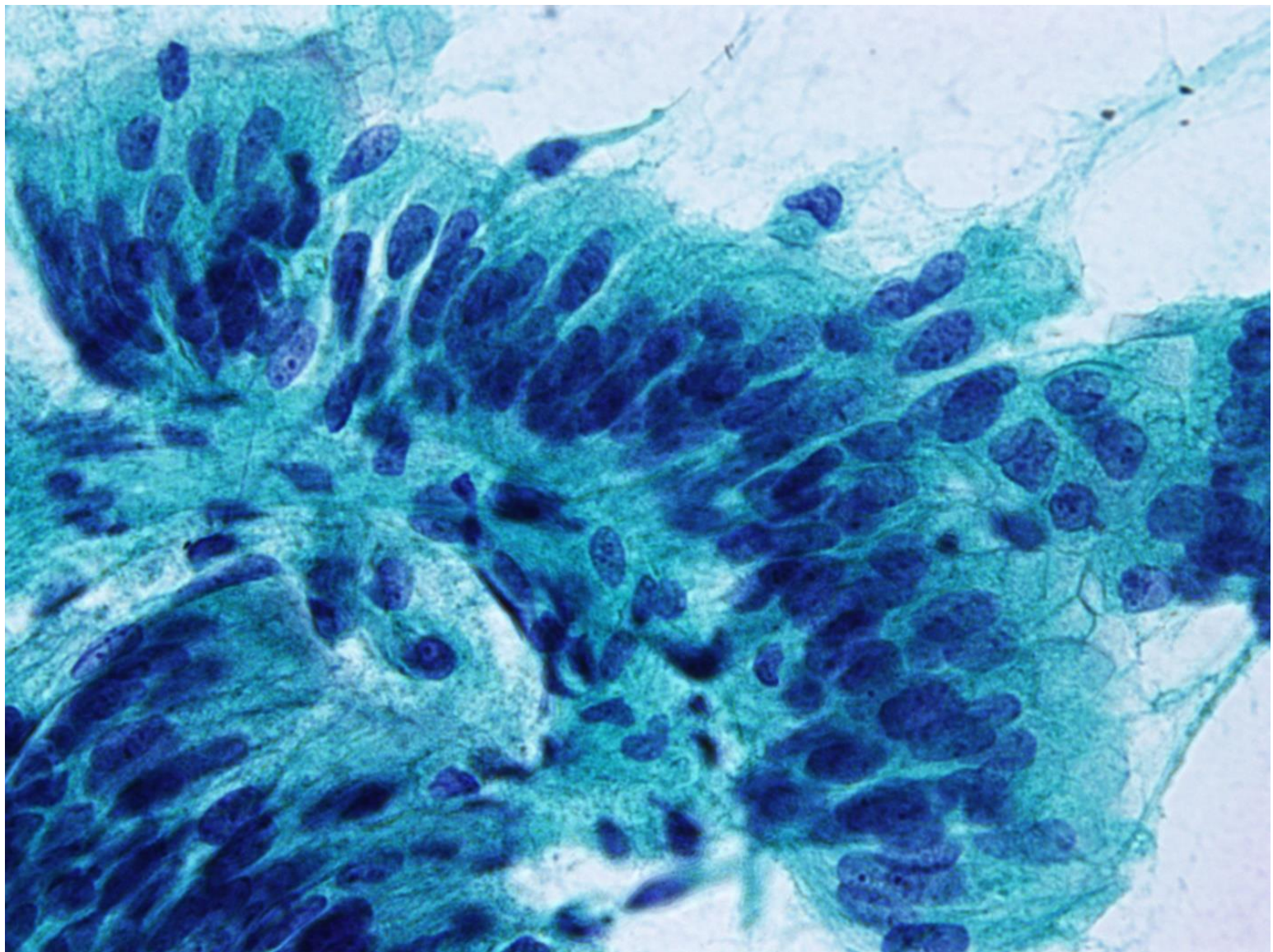
### ・細胞学的定義

円柱状の細胞が一定の間隔をおいて列をなして並んでいる。

### ・組織型の推定と補足

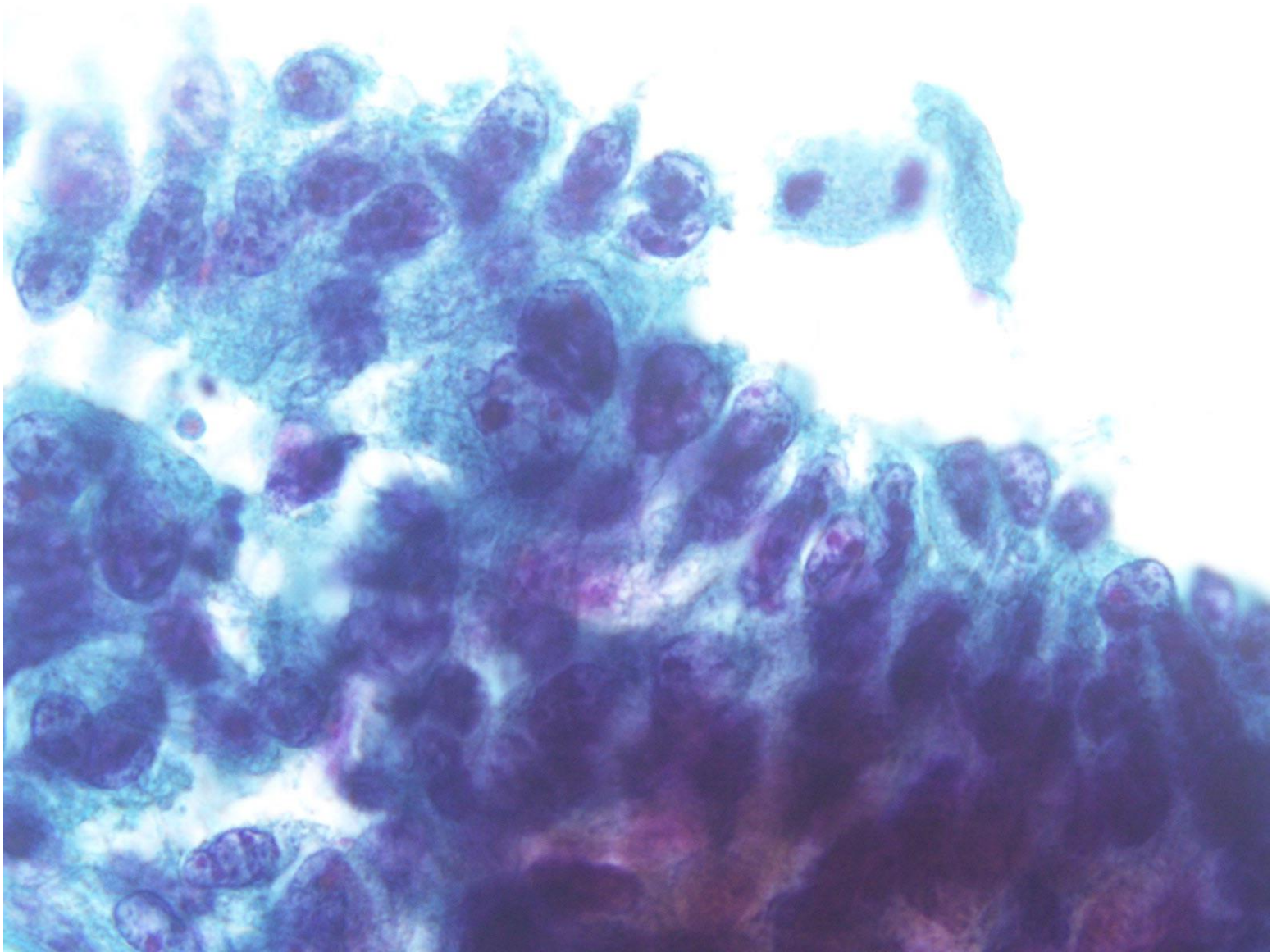
組織学的に原発性の腺癌では、乳頭型腺癌、浸潤性粘液性腺癌、腸型腺癌、胎児型腺癌などで認められる。また、転移性の腺癌では、大腸癌をはじめ様々な高円柱状の形態を示す腺癌でみられる。細胞学的に原発性か、転移性腺癌かの鑑別は困難な場合も多く、手術歴などの臨床的背景を検討することが重要である。

組織学的に扁平上皮癌では、類基底細胞型の増殖パターンを認める症例でみられることがある。この場合、細胞学的に腺癌との鑑別では、他の扁平上皮癌に特徴的な構造所見を参考に鑑別する必要がある。

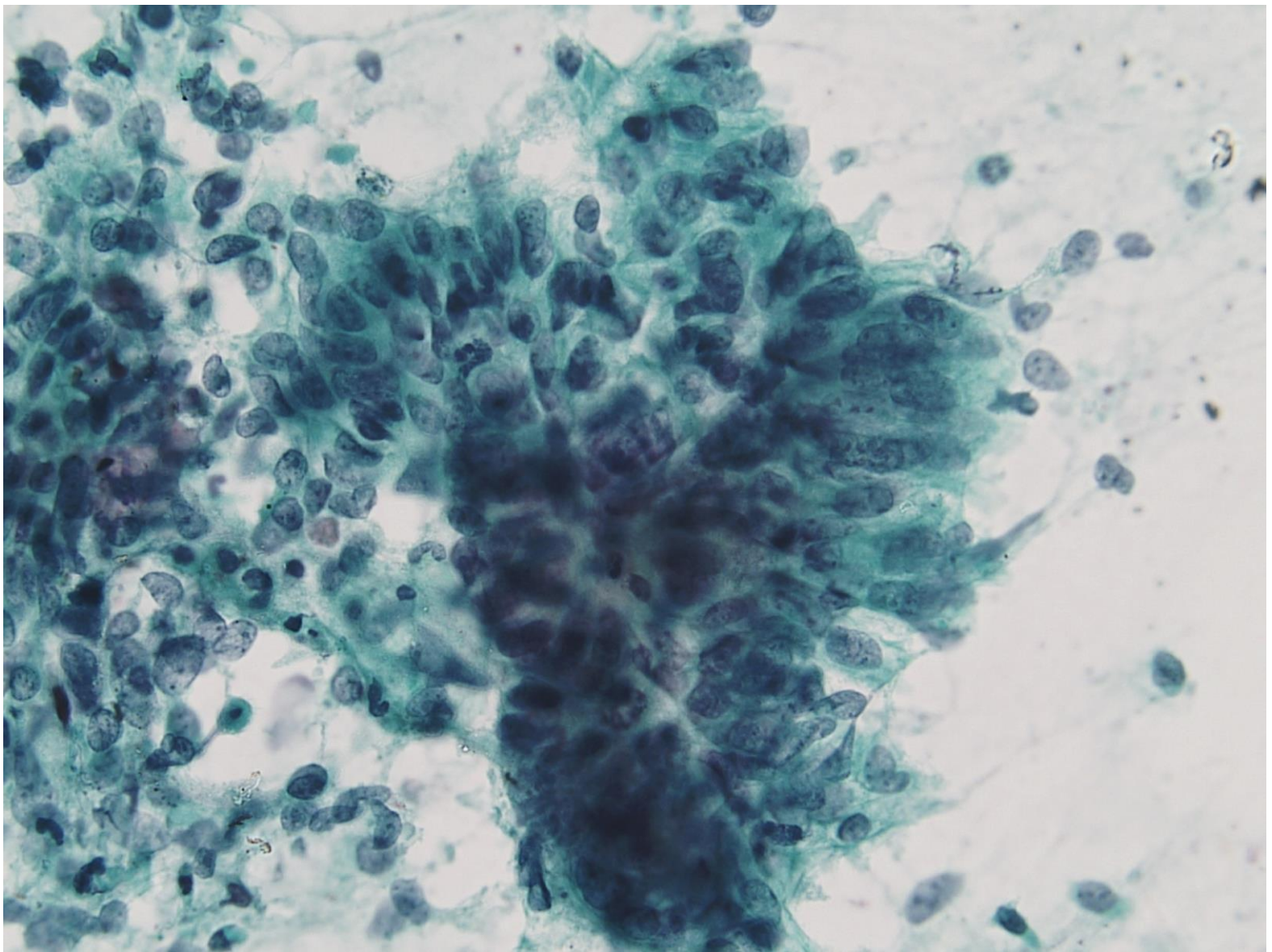


**定型例** ⑦-1 (擦過、浸潤性粘液性腺癌、用語の一致率100%) : 高円柱状の形態を示す腫瘍細胞がみられ、核は一定の間隔で偽重層性に並んでいる。柵状配列と判定する。



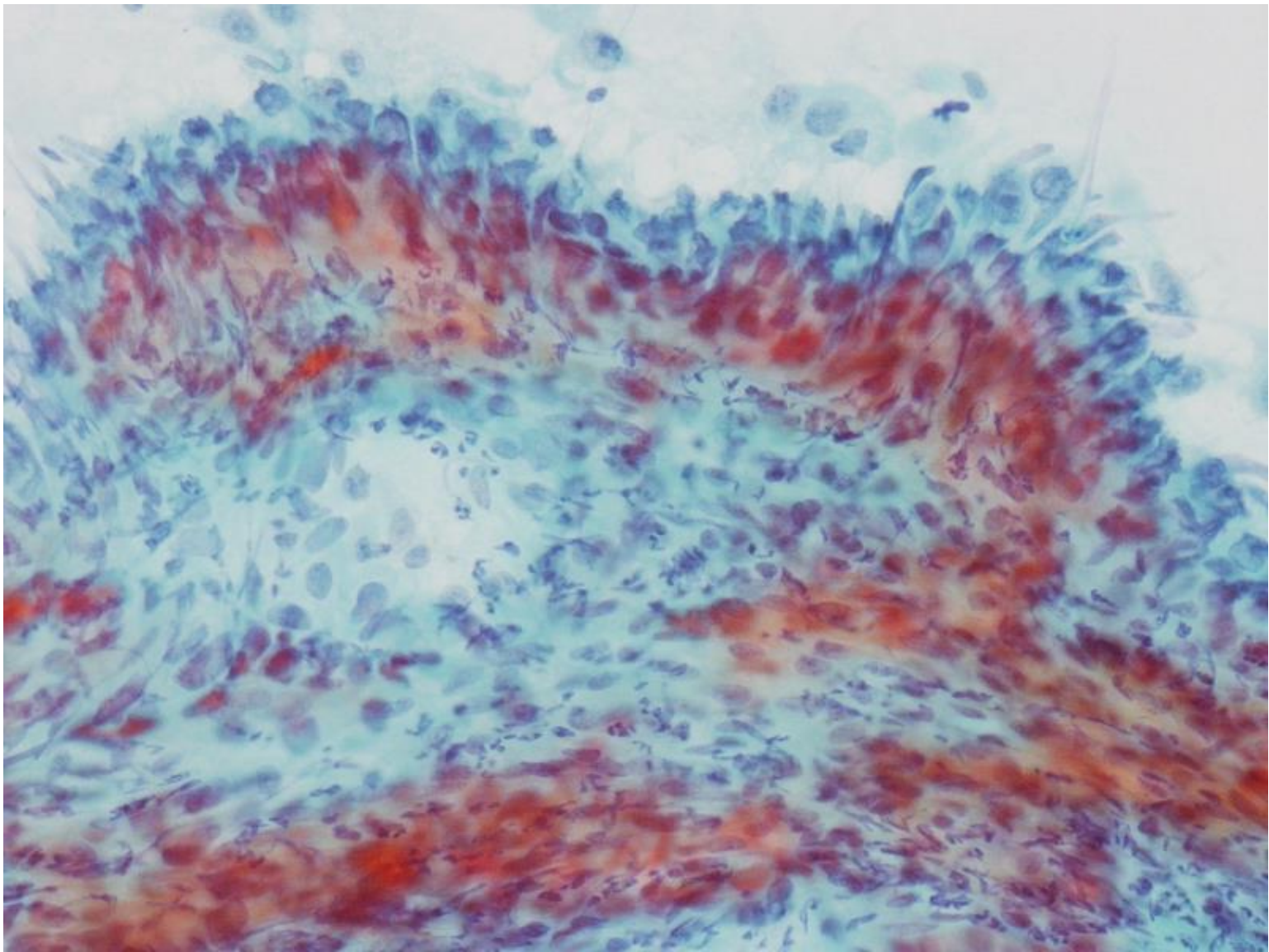


**定型例** ⑦-2 (擦過、乳頭型腺癌、用語の一致率90%) : 大型集塊の辺縁部では、腫瘍細胞が横並びに柵状配列をしている。柵状配列と判定する。

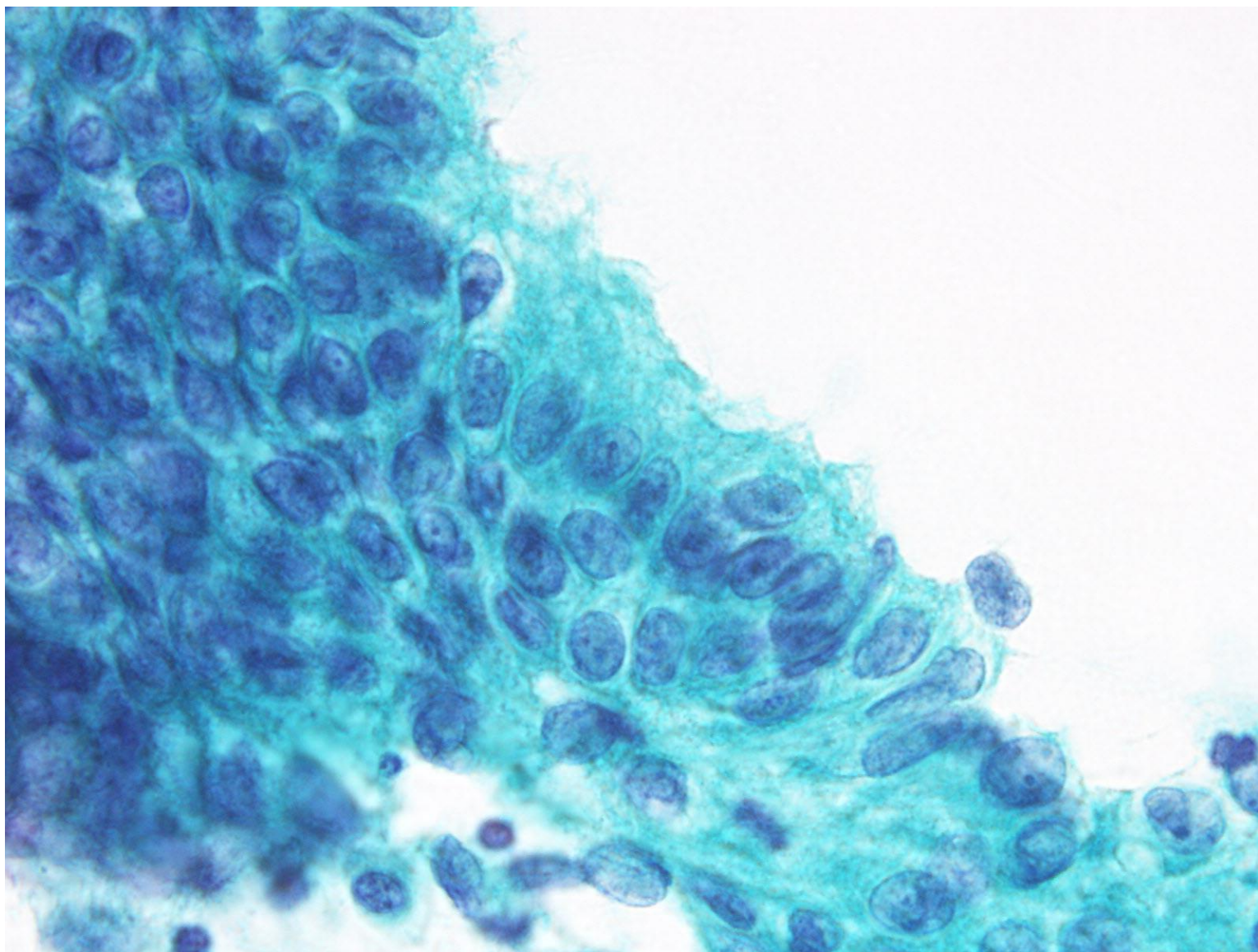


**定型例** ⑦-3(擦過、大腸癌の肺転移、用語の一致率80%): 大型の細胞集塊がみられ、核が同じ方向に向いて横並びで配列している。柵状配列と判定する。



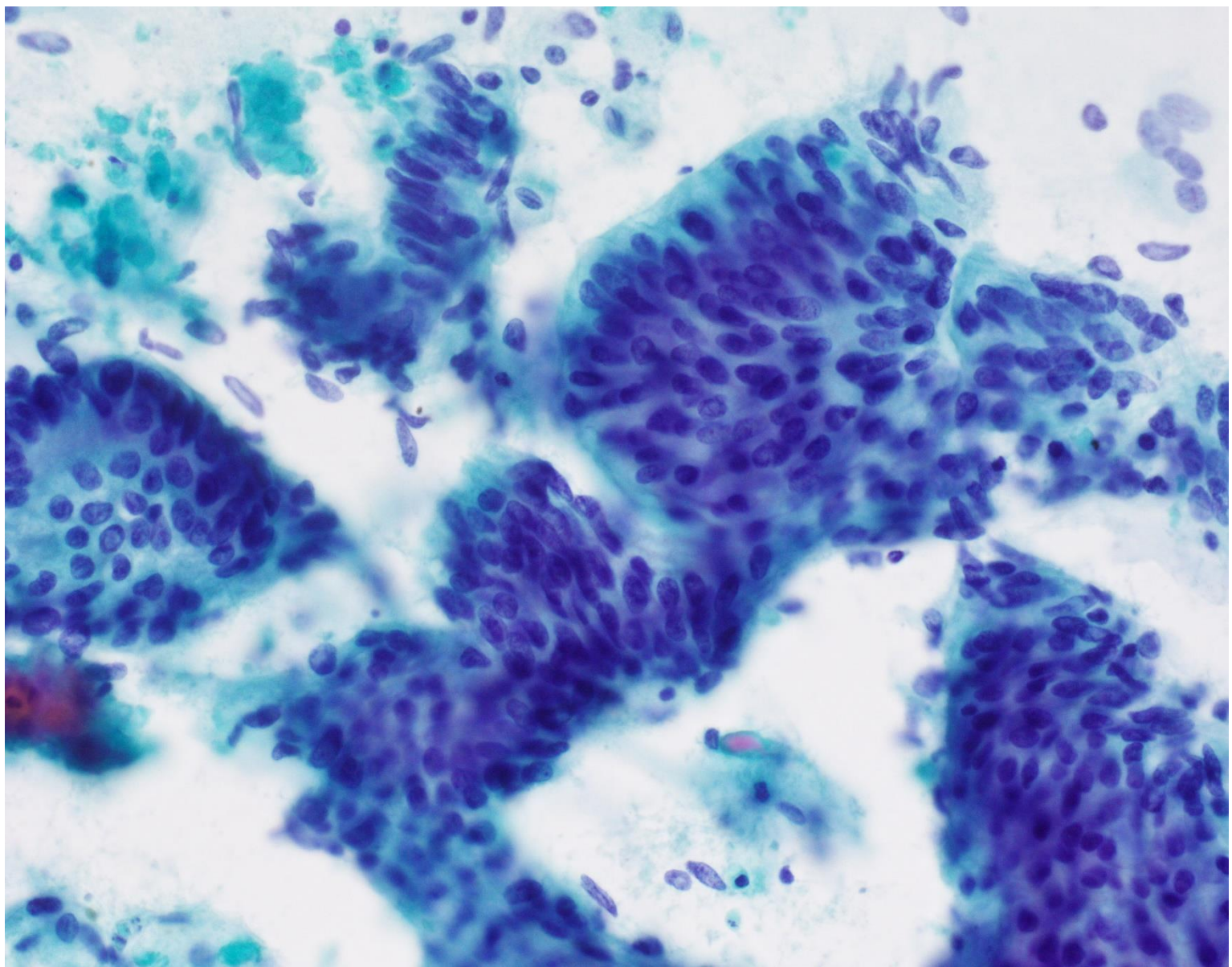


**定型例** ⑦-4(擦過、類基底細胞型扁平上皮癌、用語の一致率80%): 大型細胞集塊の辺縁部では、細胞形態は不明瞭であるが、核が一定の間隔をおいて柵のように並んでいる。柵状配列と判定する。集塊内の流れ様配列が明瞭であることから腺癌と鑑別できる。

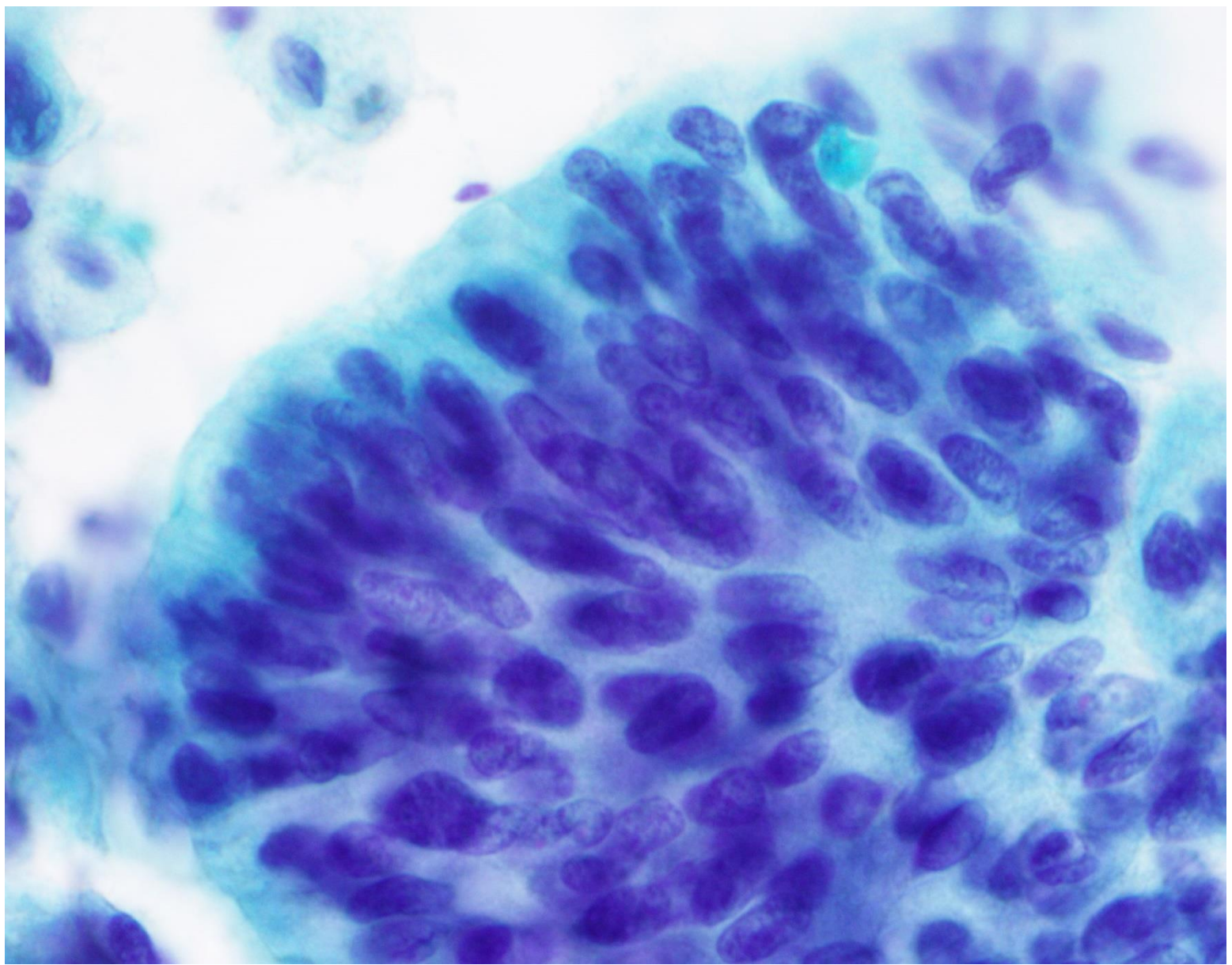


**定型例** ⑦-5(擦過、浸潤性粘液腺癌、用語の一致率90%): 大型細胞集塊辺縁の小範囲では、核が一定の間隔をおいて柵のように並んでいる。このように微小範囲しか柵状構造がみられない場合でも、明らかなものがみられた場合は柵状構造と判定する。



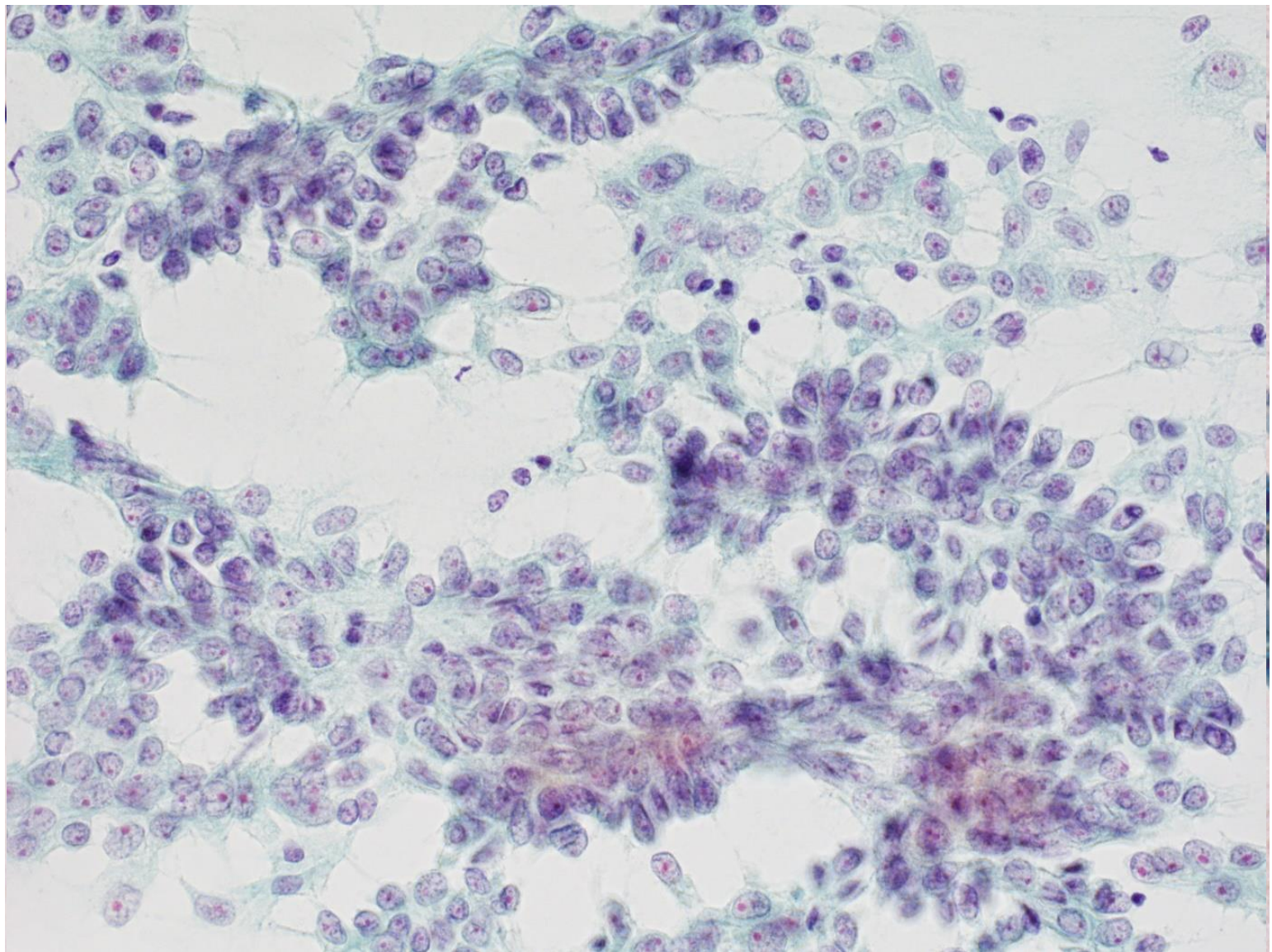


**(参考) 定型例 ⑦-6 (腫瘍捺印、腸型腺癌)**: 大型細胞集塊辺縁では、広範囲で核が一定の間隔をおいて柵のように並んでいる。柵状構造と判定する。

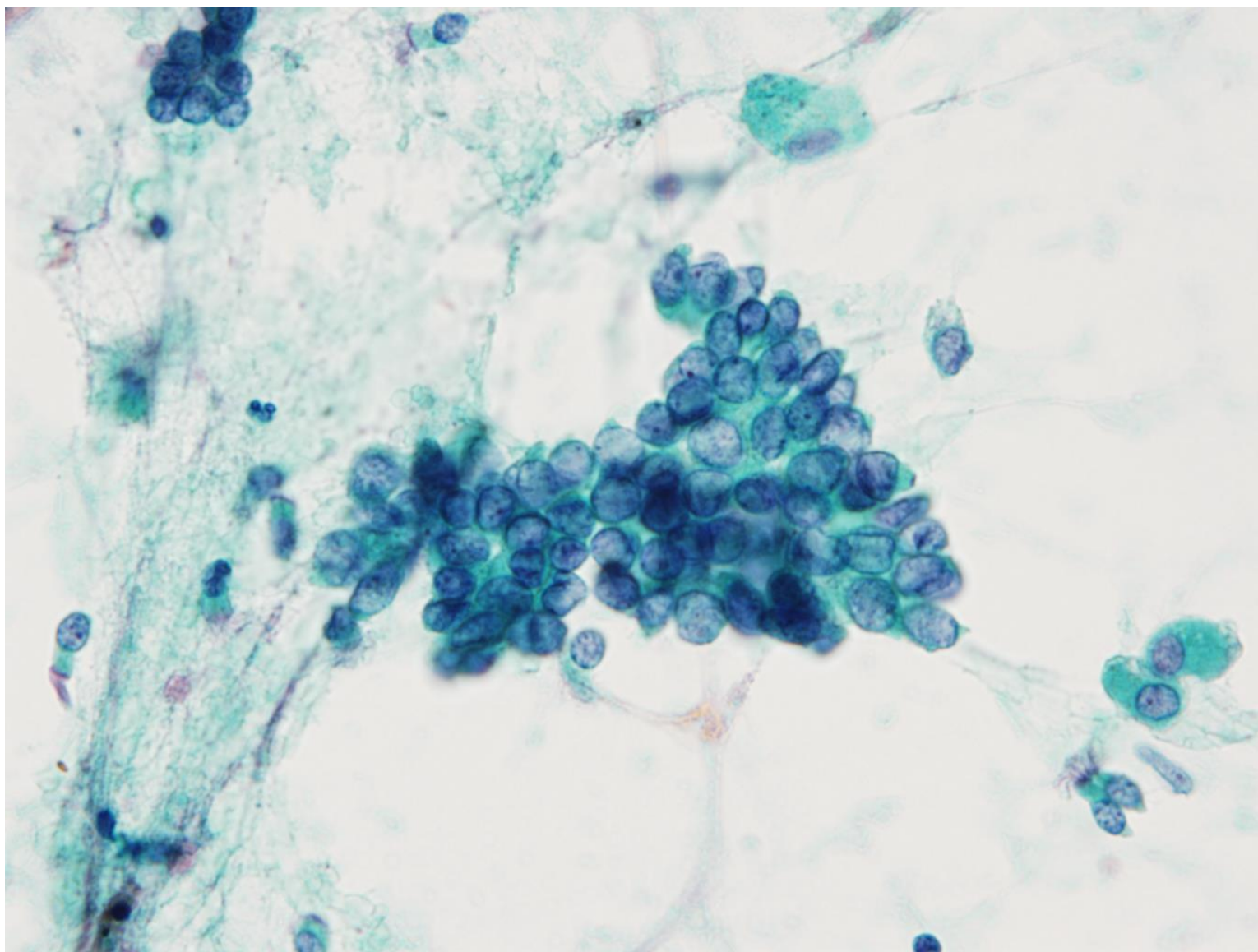


(参考) 定型例 ⑦-7(腫瘍捺印、腸型腺癌): ⑦-6の拡大像。柵状構造が明瞭である。大腸癌の肺転移とは、クロマチンが微細顆粒状で均一、明瞭な核小体が見られないなど、細胞像が異なる。





⑦-8(捺印、腺癌、用語の一致率20%):線維血管性間質を有する乳頭状集塊を認める。部分的に裸核様の腫瘍細胞が横並びに並んでいるように見えるが、円柱状の形態がみられないことから柵状とは判定しない。



⑦-9(擦過、腺癌、用語の一致率10%):軽度の重積性を示す中型の細胞集塊である。胞体に乏しい裸核様の腫瘍細胞が横並びに並んでいるように見える。しかし、横並びは一定の間隔ではなく、円柱状の細胞形態も認められないため柵状構造とは判定しない。